

## 2024年度スピリチュアルケア専門講座 講義概要

前 期		
科目名 講座日程	講義テーマと内容	講師
現代社会と スピリチュアリティ  2024年4月28日 5月12日	テーマ:均質化する社会・される個人…責任から逃避する態度への問い 自らの安定のために、社会の合理的と思える権威に従い、均質化される生き方に疑問を抱かずに従う人が増えている。そうした現状に対して、個々が責任ある態度をとることで、私たち一人ひとりが、かけがえのない存在になっていくことを明らかにする。	佐藤俊一
スピリチュアルケア 原論  2024年4月28日 5月12日	「スピリチュアル」と「ケア」の二つに分けて、それぞれの特徴を明らかにする。スピリチュアルケアの実践に向けての基本的知識と情報を明らかにする。スピリチュアルケアと宗教や心理的ケアの違い、また、キュア（治療）とケア（配慮）の違いなどを明確にする。更に、スピリチュアルケアの歴史、ケアする人に必要な能力など。スピリチュアルケアは患者や利用者にとってどんな援助か。患者のスピリチュアルペイン（痛み）、ニーズ（必要）のアセスメントにも触れる。	窪寺俊之
保健医療と スピリチュアリティ  2024年6月8日	テーマ：死を前にした患者をどう支えるか 緩和ケアの本質は厳しい病状の中でも「生を肯定して」生きられるよう支援することである。緩和ケアにおけるQOLの考え方や患者の支えを強めるために何ができるか、臨床の現場での取り組みを紹介する。	坂下美彦
	テーマ：社会と個人の健康を考える力を養う 医療の現場では人生の危機に直面して「人間らしく」「自分らしく」生きることが難しい状況が多くみられる。その中からスピリチュアリティに関係する領域を一つ取り上げ、検討する。	新井公人
宗教と スピリチュアリティ  2024年6月16日	テーマ：宗教や価値観の理解への抵抗や遠慮、可能性と限界 私たちの生き方に及ぼす影響から、キリスト教、仏教、神道や儒教、そして今後の関わり増加が予想されるイスラームなどを視野に入れた、スピリチュアルケアの実践を考える。	葛西賢太
対人援助論(1)  2024年8月10日	テーマ：対人にかかわる実践力を磨く（1） 教育の高度化や専門化という方向性によって、頭で考える(思考する)ことが優先している現状がある。ここでは臨床的態度を学ぶことで、気持ちが動いて身体で感じて行動する力を身につけられるようにする。	佐藤俊一

後 期

科目名 講座日程	講義テーマと内容	講師
<p>精神医学とスピリチュアリティ①</p> <p>2024年9月16日</p>	<p>人類は有史以前から群れで生活しており、助け合いがあり、医療、介護もあった。現在まで影響を与えている古代ギリシャの医療における「ヒポクラテスの誓い」が未だに先進国の多くで用いられている。しかし現代医学は自然科学の発達に合わせてその一分野として発展してきたが、科学性のみに焦点が向き、患者さんの苦痛、苦悩、死の恐れなどを考慮することが少なくなり、現在は科学的医療から全人医療へと先進国は舵を切っており、その中で精神の階層性、スピリチュアリティが認識されている。</p>	<p>日下忠文</p>
<p>精神医学とスピリチュアリティ②</p> <p>2024年10月20日</p>	<p>テーマ：well-beingとBio-psycho-social-spiritualモデルから精神医学を再考する</p> <p>価値としてのwell-beingが提唱されて70年、構築主義的なBio-psycho-socialモデルが登場して50年になる。障がいを巡る視点はICIDHの機能障害からICFの関係性の視点で、共生として社会モデルとして再構築された。しかし、ケアをする/受けるあり方の実践の場ではまだ医学モデルが残る。常に生を制限する力との問題に晒される精神医学からwell-beingを再考する。</p>	<p>小川 恵</p>
<p>臨床心理学とスピリチュアリティ</p> <p>2024年9月16日 10月20日</p>	<p>テーマ：つながりあう「いのち」を生きる</p> <p>臨床心理学とスピリチュアルケアに共通する「いのちとそのケア」の捉え方について、さまざまな見解の概観を試みる。スピリチュアルケアにおいて、なぜ「今、ここで」の自己覚知に基づく相互の理解が重視されるのか、また、ケアする者とされる者との「呼応の関係」が大切になる理由を問うてみる。それらを通じて、スピリチュアルケアにおける「Being（相手とともに/自分自身とともに）」の重要性を探究する。</p>	<p>木村登紀子</p>
<p>対人援助論(2)</p> <p>2024年12月1日</p>	<p>テーマ：対人にかかわる実践力を磨く</p> <p>ケアを必要とする相手からの、自覚的なあるいは暗黙の呼びかけに気づき、相手の必要に応えつつそれぞれらしく相互にかかわるケアの在り方を探る。どのような場であっても、相手と共に居る（自分自身とも共に居る）ケアの実践ができるように、基本的な力を修得することをめざす。</p>	<p>木村登紀子</p>
<p>対人援助論(3)</p> <p>2025年1月26日</p>	<p>テーマ：対人にかかわる実践力を磨く（3）</p> <p>他者の中に働くさまざまな価値観や力動を大切にしつつ、ケア者もその力動のなかの一つの要素として関わる。ケア者の自己理解の深まりが求められる。それらを大切にする援助演習をおこなう。</p>	<p>伊藤高章</p>
<p>臨床哲学とスピリチュアリティ</p> <p>2025年3月2日 3月8日</p>	<p>テーマ：ケアの原点…私たちは、お互いにケアしあう存在である</p> <p>なぜ、スピリチュアリティが求められるのか。これまでの対人にかかわる科学主義的態度を検証し、その限界や問題点から検討する。焦点とするのは、これまで正面から取りあげられなかった、主観や予測できないこと等をテーマとすることで、ケアを生身の関係から基礎づけることである。</p>	<p>佐藤俊一</p>